

京 都 大 学

結核胸部疾患研究所年報

昭 和 4 5 年 度

(1971年3月)

京都大学結核胸部疾患研究所

京 都 大 学

結 核 胸 部 疾 患 研 究 所 年 報

昭 和 4 5 年 度

(1970年)

京都大学結核胸部疾患研究所職員及準職員

所 長 教 授 辻 周 介

(内科学第一部門)

主任教授：前川暢夫，助教授：中西通泰，助手：川合 満・中井 準・久世文幸・武田貞夫・賀戸重允，講師(非常勤)：吉田敏郎・池田宣昭，技能補佐員：赤田博子

(内科学第二部門)

主任教授：辻 周介，助教授：大島駿作，講師：小原幸信，助手：福間謙助・泉 孝英・森岡茂治・木野稔也，講師(非常勤)：日置辰一郎・太田 鋤・藤田 豊・阿部光幸・浅田高明・中島道郎，技能補佐員：今村祐子・山下ちよ子

(胸部外科学部門)

主任教授：長石忠三，助教授：寺松 孝，講師：佐川弥之助・池田貞雄，助手：人見滋樹・船津武志・甲斐隆義・伊藤元彦，講師(非常勤)：中村 健・安淵義男・吉田 昇・日下芳郎・小林君美・上月景光・加藤幹夫・久野健志・大道重夫・山崎 昇・山本博昭・岡田慶夫・立石昭三・高橋清之

(病理学部門)

主任教授：安平公夫，助教授：竹田俊男，助手：森川 茂・高橋権也，講師(非常勤)：服部正次，技能補佐員：今竹陸美

(細菌血清学部門)

主任教授：上坂一郎，助教授：大岩弘治，助手：桂 義元・竹尾 漢治，講師(非常勤)：村上春彦・大平 実・尾里啓子・小林 博，技能補佐員：白田通子

(細胞化学部門)

主任教授：高松英雄，講師：大川 欣一，助手：金村秦輔・平井圭一，講師(非常勤)：浜島義博・水谷 昭，技官：竹内道子

(併 任)

教授：西尾 雅七(京都大学医学部公衆衛生学教室)

(事務部)

事務長：石津 豊，事務長補佐：北川治康，庶務掛長：三好 弥博，同主任：浅木 俊昭，同事務官：近藤 英子・堀田良恵・木村 ちゑ子・室谷 弘美，同技官：田中 稔・川原田 和夫，事務補佐員：諏訪 多香子，經理掛長：松本 正，同主任：森田彰彦，同事務官：野元頼子・佐藤良男・中井恒博・竹内照夫・奥村成和，事務補佐員：二谷 都，収入掛長：秋田三郎，同主任：中村睦太郎，同事務官：松本キヌ・野田芳子・佐竹セツ・川勝まゆみ・藤井芳克，事務補佐員：尾家孝子・沢田かず子，患者掛長：鴨脚道哉，同事務官：前田久男・室恵美子・児玉登美枝・岡野福子，事務補佐員：和田日出子・西村多加子，管理掛長：渡辺義一，同事務官：城 為章，同技官：進士悟・西川景曠・松浦 康・小西喜一郎，同技能員：岩井昭一，同用務員：内木カネ子・橋本敏子・高安忠一・水原貞子，臨時用務員：渡辺光子

(動物飼育室)

技官：門田一美・飛田 勇・安岡倉一，技能員：大字雪雄，臨時用務員：近藤照子

(附属病院)

病院長(兼)：教授：前川 暢夫

(第一内科診療科)

科 長(兼)・教授：前川 暢夫
外来医長(兼)：助教授：中西 通泰
病棟医長(兼)：助教授：中西 通泰

(第二内科診療科)

科 長(兼)：教授：辻 周介
外来医長(兼)：助教授：大島 駿作
病棟医長(兼)：講 師：小原 幸信

(外科診療科)

科 長(兼)：教授：長石 忠三
外来医長(兼)：助教授：寺松 孝
病棟医長(兼)：講 師：佐川弥之助

(検査部)

検査部主任(兼)：助教授：大島駿作，技官：大槻 実・山岸悦子・木津 啓・山田愼一・平井 要・小野木照子・山田孝子・小原保代・本間トキエ・増田 稔・吉村 一枝・和田 ひな・西尾 貞子・永島邦雄・山根 すま子，用務員：清水一枝

(放射線部)

放射線部主任(兼)：助教授：大島駿作，技師長：浜川純一，撮影主任：蔵岡信良，技官：大坂泰夫・曾我部康之・灘井智代子，技能補佐員：田中文子

(薬剤部)

薬剤部長：桑田 宏，薬剤主任：沢岡平和，技官：在田 寿子・金森 昌子・田中 裕之，事務官：宇野 初枝・馬田 保子，薬剤師：山内直美

(看護部)

総婦長：細川 ミツエ，看護婦長：中根 文子・大前 久野，副看護婦長：小林 とよ・北村 トミ子・松田 比佐子，技官：古府静江・近藤信子・岩永千代子・高市政子・安部克己・山崎保子・松本敏枝・田中松代子・松宮なを子・松田富子・小林梅野・明石和子・岡崎明子・齊藤千鶴子・森下政枝・小林富貴子・小川まゆみ・島田慶子・渡部 宮子・西村文子・橋本綾子・曾我部京子・井藤泰子・丸井早苗・国吉弘子・稲垣美智子・松田初枝・山田直美・弘岡満里子・三浦美智子・清水添子・隅田陽子・高田よしゑ・広川一枝・中川 近・能井美千代，技術員：北川 富子・岡崎せき・山口裕都子・杉村加代子，技能員：広瀬百合子・森 朝子

業 績 目 録

内 科 学 第 1 (主任 教授 前 川 暢 夫)

〔学 会 発 表〕

- 1) 前川暢夫, 中西通泰他: Alveolar Cell Carcinoma の1例, 第71回日本内科学近畿地方会(昭45.5)
- 2) 内藤益一, 前川暢夫, 川合満: 動物実験による抗結核剤 Screening Test の一方法の検討, 日本結核化学療法研究会(昭45.6)
- 3) 内藤益一: SM ならびに PAS 過敏症(続報), 日本結核化学療法研究会(昭45.6)
- 4) 前川暢夫, 吉田敏郎, 津久間俊次, 中西通泰, 川合 満, 池田宣昭, 内藤益一: SM ならびに PAS の過敏症, 第45回日本結核病学会総会(昭45.7)
- 5) 前川暢夫, 津久間俊次, 中西通泰, 川合 満, 池田宣昭, 内藤益一: 動物実験による抗結核剤 Screening Test の一方法の検討, 第45回日本結核病学会総会(昭45.7)
- 6) 前川暢夫: Alveolar Cell Carcinoma の1剖検例(学術展示), 第10回日本胸部疾患学会総会(昭45.7)
- 7) 前川暢夫他: ブレオマイシンによる肺癌の治療, 第11回日本肺癌学会総会(昭45.10)
- 8) 前川暢夫: シンポジウム「生活環境と関連する呼吸器疾患」(司会)第36回日本結核病学会・第6回日本胸部疾患学会合同近畿地方会(昭45.12)
- 9) 内藤益一, 前川暢夫, 池田宣昭: Lividomycin の抗結核性に関する研究(第1報), 日本結核化学療法研究会(昭45.12)
- 10) 内藤益一, 前川暢夫, 池田宣昭: Tuberactinomycin の抗結核性に関する研究(第1報), 日本結核化学療法研究会(昭45.12)
- 11) 川合 満, 前川暢夫: 結核菌の増殖—Biophotometer による観察, 京大胸部研学術講演会(昭46.1)
- 12) 前川暢夫: 肺結核の活動性診断, 京大胸部研学術講演会(昭46.1)

〔誌 上 発 表〕

- 1) 内藤益一他: 未治療肺結核に対する SM・INH・EB 併用療法, 結核45(2); 55~60(昭45.2)
- 2) 内藤益一, 前川暢夫: 咯血(肺結核を中心に), 「薬物療法の実際」(分担執筆)アサヒ興業出版,(昭45.4)
- 3) 内藤益一, 前川暢夫他: 肺結核再治療例に対する RIFAMPICIN の治療効果, 結核45(7); 227~235(昭45.7)
- 4) 内藤益一他: Rifampicin による肺結核治療の臨床的研究, 第1報予備的研究, 重症耐性肺結核に対する治療成績, 結核45(8); 251~256(昭45.8)
- 5) 内藤益一他: Rifampicin による肺結核治療の臨床的研究, 第2報 未治療肺結核に対する RFP・INH・PAS 併用と SM・INH・PAS 併用の治療効果比較, 結核 45(8); 257~262(昭45.8)
- 6) 中井準, 前川暢夫, 中西通泰, 川合 満, 内藤益一: 結核化学療法施行前の咯痰中結核菌の耐性検査成績について(第3報), 京大胸部研紀要 4(1); 15~24(昭46.1)
- 7) 前川暢夫: 抗結核薬の副作用, 京大胸部研紀要 4(2); 17~23(昭46.3)

内 科 学 第 2 (主任 教授 辻 周 介)

〔学会発表及び講演〕

- 1) 泉 孝英: 肺門淋巴節の腫脹する疾患について, 滋賀県結核予防関係職員講習会(昭45.2.23)
- 2) 泉 孝英: サルコイドーシスの臨床, 滋賀県結核予防医講習会(同上)
- 3) 泉 孝英, 辻 周介: ツベルクリンアレルギーにおける Immune Deviation, 日米医学協力計画結核専門部会(昭45.3.5)

- 4) 泉 孝英, 甲斐隆義, 小原幸信, 辻 周介: 肺胞蛋白症の1例(第2報), 第71回日本内科学会近畿地方会(昭45.5.30)
- 5) 木野稔也, 泉 孝英, 辻 周介: In Vitro における遅延型アレルギーの研究(1)モルモットにおける遅延型皮膚反応と腹腔浸出細胞遊走阻止現象の関係に対する吟味, 第24回実験結核研究会総会(昭45.7.10)
- 6) 泉 孝英: ツベルクリンアレルギーに関する研究(第4報)BCG 生菌感作と死菌感作間における相互抑制作用, 第45回日本結核病学会総会(昭45.7.11)
- 7) 大島駿作, 西田正行, 辻 周介: 健康人尿中の結核菌発育抑制因子の精製, 同上(同上)
- 8) 藤田 豊, Alfred J. Crowle: 結核菌のトリプシン抽出免疫物質の精製と化学的分析, 同上(同上)
- 9) 泉孝英: 本邦におけるサルコイドーシスの実態, 1965-69年の全国症例を中心として(中間報告), 第10回日本胸部疾患学会自由集会「サルコイドーシスの診断に関する諸問題」, (昭45.7.12)
- 10) 工藤祐是, 岩井和郎, 高橋昭三, 泉 孝英, 細田 裕, 片岡哲郎, 三上理一郎: サルコイドーシス淋巴節から抗酸菌フェージ検出の努力(中間報告), 第10回日本胸部疾患学会総会(昭45.7.13)
- 11) 泉 孝英, 木野稔也, 森岡茂治, 小原幸信, 辻 周介: 胸部サルコイドーシス自然経過症例65例の臨床的検討, 同上(同上)
- 12) 辻 周介, 泉 孝英, 森岡茂治, 木野稔也: サルコイドーシス患者の妊婦症例について, 同上(同上)
- 13) 岡田慶夫, 赤嶺安貞, 泉 孝英, 甲斐隆義: 慢性肺疾患の超微形態(1)肺胞蛋白症, 同上(昭45.7.14)
- 14) 泉孝英: サルコイドーシスについて, 済生会野江病院談話会(昭45.7.16)
- 15) Tooshiya Kino, Takateru Izumi and Shusuke Tsuji: Study of the Delayed Hypersensitivity in vitro evaluation of relationship between migration inhibition of sensitized peritoneal exudate cells from capillary tubes and delayed skin sensitivity, The Fifth Joint Meeting Tuberculosis Panel, Japan-US Co-operative Medical Science Program, (昭45.9.2)
- 16) 泉 孝英, 大島駿作, 木野稔也, 小原幸信, 辻 周介: サルコイドーシス症の発病時所見(特に免疫血清学的所見)と予後の関連性, 第22回国立大学附置研究所結核胸部疾患談話会(昭45.9.9)
- 17) 泉 孝英, 船津武志, 寺松 孝: ツベルクリン・アレルギーの受身伝達に関する研究(第4報), 血液交叉循環法を用いたウサギにおけるツベルクリン・アレルギー伝達の試み, 第20回日本アレルギー学会総会(昭45.11.5)
- 18) 泉 孝英, 木野稔也, 小原幸信, 藤田 豊, 浅田高明, 森岡茂治, 辻 周介: Kveim 反応の特異性に関する検討, 第2回日本臨床免疫研究会総会(昭45.11.13)
- 19) 辻 周介: 非結核性肺疾患について, 昭和45年度国立療養所医師研修会(昭45.11.25)
- 20) 泉 孝英: サルコイドーシスについて, 同上(同上)
- 21) 木野稔也, 泉 孝英, 辻 周介: in vitro における遅延型アレルギーの研究(第2報)モルモットにおける腹腔浸出細胞遊走阻止現象と血清抗体の関係について, 第25回実験結核研究会総会(昭45.11.27)
- 22) 寺松 孝, 大島駿作: 興味ある肺手術2例, 第36回日本結核病学会, 第6回日本胸部疾患学会近畿地方会(昭45.12.5)
- 23) 泉 孝英: シンポジウムI「サルコイドーシスの病因をめぐって」1.臨床的立場から, 同上(同上)
- 24) 泉 孝英, 小原幸信, 森岡茂治, 木野稔也, 辻 周介: シンポジウムII「生活環境と関連する呼吸器疾患」1.近年におけるサルコイドーシス症増加の要因, 同上(同上)
- 25) 木野稔也, 小原幸信, 辻 周介: 肺胞微石症の姉妹発生例, その遺伝因子の重要性について, 第73回日本内科学会近畿地方会(昭45.12.12)
- 26) 泉 孝英, 小原幸信: サルコイドーシスの治療, 昭和45年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会(昭46.1.30)
- 27) 福岡謙助: 「今日の話」肺疾患診断へのアプローチ, 3. ぜんそくの皮内反応閾値と誘発試験との関連性, 同上(同上)

〔誌上発表及び著書〕

- 1) 日置辰一郎：慢性閉塞性肺疾患の増悪・進展の臨床的研究，京大胸部研紀要，3：120, 1970
- 2) 泉 孝英：サルコイドーシスの臨床，京大胸部研紀要，3：134, 1970
- 3) 泉 孝英，辻 周介：サルコイドーシスの免疫学的研究—特に結核症との関連性—，長石忠三，内藤益一，岡田慶夫編：図説，胸部疾患診療研究最近の動向，pp. 120, アカデミーサービス，東京，1970
- 4) 泉 孝英：サルコイドーシスのX線像，財団法人結核予防会京都府支部発行，京都，1970
- 5) 泉 孝英，小原幸信，木野稔也，森岡茂治，辻 周介，今井節朗，上田千里，並河 靖：サルコイドーシスにおける免疫学的変化（ツベルクリン・アレルギー，Kveim 反応性および高 γ -グロブリン血症）相互間の関連性に関する検討，臨床免疫，2：411, 1970
- 6) 泉 孝英，辻 周介：ツベルクリン・アレルギーにおける Immune Deviation に関する研究，昭和44年度日米医学協力計画報告書，pp. 53, 日米医学協力研究会結核専門部会
- 7) 辻 周介：私の治療法—サルコイドーシス，臨床科学，7：250, 1971
- 8) 中島敏夫，伊藤文雄，辻 周介，小原幸信：アセチルチスチン気管内点滴注入が奏効した肺胞蛋白症の1例，日本臨床，28：2517, 1970
- 9) Toshiya Kino, Yukinobu Kobara and Shusuke Tsuji: Pulmonary Alveolar Microlithiasis. A Report of Two Young Sisters, Am. Rev. Resp. Dis., (in press)
- 10) Takateru Izumi and Richard Costello: Temporal development of resistance to pulmonary tuberculosis in swiss albino mice, J. Exp. Med., 133：376, 1971
- 11) Richard Costello and Takateru Izumi: Measurement of resistance to experimental tuberculosis in albino mice. The immune phase, J. Exp. Med., 133：362, 1971
- 12) 日置辰一郎，中島道郎，浜本康平，井上良一，広瀬邦彦：気腫性嚢胞感染例の臨床的観察，京大胸部研紀要，4：25, 1970
- 13) 日置辰一郎，中島道郎，立石昭三，浜本康平，生駒静正，坂井隆：慢性閉塞性肺疾患の予後，労働能力の低下に関する2・3の因子について，京大胸部研紀要，4：61, 1970
- 14) 大島駿作，西田正行，辻周介，森本和郎，渡辺熙：健康人尿中の結核菌発育抑制因子の研究—採集方法と活性との関係—，京大胸部研紀要，4：54, 1970

胸部外科学部（主任 教授 長石忠三）

〔特別講演，招請講演，シンポジウム，パネルディスカッション等〕

- 1) 長石忠三：現時点における肺癌治療に対する考え方，第35回日本結核病学会および第17回日本胸部疾患学会東海地方会合同学会招請講演（昭45.6）
- 2) 加藤康夫：老人結核の手術適応について，第35回日本結核病学会および第17回日本胸部疾患学会東海地方会合同学会シンポジウム「老人結核」（昭45.6）
- 3) 岡田慶夫：悪性骨腫瘍の肺転移に対する外科的治療の問題点，第34回中部日本整形外科災害外科学会シンポジウム「悪性骨腫瘍の診断と治療」（昭45.6）
- 4) 長石忠三：「現時点における肺結核外科的療法」第45回日本結核病学会総会シンポジウム特別発言（昭45.7）
- 5) 佐川弥之助：肺水腫の基礎と臨床，第10回日本胸部疾患学会総会シンポジウム「肺水腫の基礎と臨床」（昭45.7）
- 6) Nagaishi, C.: Honorary Chairman, Scientific Session: Pulmonary Neoplasma, at the XIth International Congress on Diseases of the Chest, Lausanne, Switzerland (昭45.8)
- 7) Nagaishi, C.: International Committee on Lung Surgery, Lausanne, Switzerland (昭45.8)
- 8) 佐川弥之助：肺結核，第32回日本臨床外科医学会総会シンポジウム「肺機能障害と外科」（昭45.9）

- 9) 長石忠三：肺癌について，日本医師会および京都府医師会共催シンポジウム「製癌剤の使い方」(昭45.10)
- 10) 長石忠三：第22回日本気管食道科学会特別講演「気道癌の疫学的研究(宮地徹)」座長発言(昭45.10)
- 11) 船津武志：胸腔鏡下肺生検法による肺癌の診断，第11回日本肺癌学会総会シンポジウム「早期肺癌の確定診断の問題点」特別発言(昭45.10)
- 12) 岡田慶夫：組織型別にみた肺癌の悪性度，昭和45年度日本合同癌会議シンポジウム「肺癌の悪性度」(昭45.10)
- 13) 岡田慶夫：間質性肺炎の電顕像，とくに肺胞上皮系の変化について，日本病理学会秋期総会シンポジウム「肺の病理，間質性肺炎を中心として」(昭45.10)
- 14) 長石忠三：第11回国際胸部疾患会議(ローザンヌ)へ出席して，第33回 ACCP 日本支部講演会(昭45.11)
- 15) 岡田慶夫：肺の微細構造，とくに肺胞間質の変化について，第18回日本胸部疾患学会東海地方会特別報告(昭45.11)
- 16) 加藤幹夫，久野健志，佐川弥之助，甲斐隆義：開胸手術と閉塞性肺疾患，第36回日本結核病学会，第6回日本胸部疾患学会合同近畿地方会シンポジウム「生活環境と関連する呼吸器疾患」(昭45.12)
- 17) 寺松 孝：結核性膿胸に対する外科的療法，第13回日本胸部外科学会関西地方会シンポジウム座長(昭46.2)

〔一般講演〕

- 1) 小林君美，松本守海，加藤康夫，井上律子，清水慶彦：最近経験せる肺過誤腫の2例について，第55回岐阜外科集談会(昭45.2)
- 2) 長石忠三：第70回日本外科学会総会主題「胸部」座長発言(昭45.3)
- 3) 岡田慶夫：日本のがん，近江サナトリウム開院記念講演(昭45.5)
- 4) 加藤康夫：「Low Output Syndrome」第5回名古屋心臓外科談話会シンポジウム(昭45.5)
- 5) 小林君美他：連合弁膜症の1治験例，第6回岐阜循環器疾患研究会(昭45.5)
- 6) 小林君美，井上律子，加藤康夫，松本守海他：心膜囊腫の2例について，第35回日本結核病学会および第17回胸部疾患学会東海地方会合同学会(昭45.6)
- 7) 加藤康夫他：肺門型肺癌に類似せる陰影を呈した非癌2症例，第17回中部肺癌研究会(昭45.6)
- 8) 岡田慶夫他：胸部疾患の研究領域における走査型電子顕微鏡の応用，第17回日本胸部疾患学会東海地方会(昭45.6)
- 9) 小林君美，加藤康夫，井上律子，清水慶彦，松本守海他：心室中隔欠損症を伴う修正大血管転移症の1治験例について，第13回日本胸部外科学会関西地方会(昭45.6)
- 10) 小林君美，森厚，井上律子，加藤康夫他および2施設：東海地区の国立療養所における心臓手術の現況，日本循環器学会第28回東海地方会総会(昭45.6)
- 11) 岡田慶夫，池田貞雄：肺癌の免疫血清学的診断法の開発に関する研究，厚生省がん特別研究班，班会議報告(昭45.6)
- 12) 岡田慶夫：肺の微細構造，東海胸部疾患研究会(昭45.6)
- 13) 岡田慶夫：電顕と細胞診，第11回日本臨床細胞学会総会司会者報告(昭45.6)
- 14) 折田雄一，池田貞雄，岡田慶夫他：走査型電子顕微鏡による肺構造の観察，第10回日本胸部疾患学会総会(昭45.7)
- 15) 岡田慶夫，泉孝英，甲斐隆義：瀰漫性肺疾患の超微形態(1)肺胞蛋白症，第10回日本胸部疾患学会総会(昭45.7)
- 16) 長石忠三：第10回日本胸部疾患学会主題「肺の病態生理」座長発言(昭45.7)
- 17) 轟 文夫，久野健志，加藤幹夫：原発性か転移性か鑑別困難な肺腺癌の2例，第15回日本肺癌学会関西支部会(昭45.7)
- 18) 轟 文夫，加藤幹夫，沢田英夫，黒田康正：所属リンパ節転移の著しい微小肺癌の1例，第15回日本肺癌学会関西支部会(昭45.7)

- 19) 伊藤元彦, 松原義人, 畠中陸郎, 張 炎森, 山本博昭, 足達敏博: 気管成形術を行なった Oat cell cancer の1例, 第15回日本肺癌学会関西支部会(昭45.7)
- 20) 阿部光幸, 佐川弥之助, 中西通泰, 長石忠三: 進行肺癌に対する術中照射について, 第15回日本肺癌学会関西支部会(昭45.7)
- 21) 船津武志, 池田貞雄, 人見滋樹, 甲斐隆義: 肺癌の生検—縦隔鏡と胸腔鏡検査との併用について—第15回日本肺癌学会関西支部会(昭45.7)
- 22) 人見滋樹, 池田貞雄, 甲斐隆義, 船津武志: 陳旧性膿胸の胼胝より発生したと思われる Mesothelioma の1例, 第15回日本肺癌学会関西支部会(昭45.7)
- 23) 池田貞雄, 人見滋樹, 甲斐隆義, 船津武志: 肺癌手術後4,5年以上を経た晩期再発例の検討, 第15回日本肺癌学会関西支部会(昭45.7)
- 24) 小林君美, 井上律子, 加藤康夫, 松本守海他: 肺結核と誤診された肺癌の1例について, 第57回岐阜外科集談会(昭45.7)
- 25) 岡田慶夫, 甲斐隆義: 肺癌を疑って切除した黒鉛肺の1例, 第10回日本胸部疾患学会総会展示(昭45.7)
- 26) 池田貞雄, 人見滋樹, 船津武志, 甲斐隆義, 岡田慶夫: 70才以上の肺癌症例における手術成績の検討, 第23回日本胸部外科学会総会(昭45.8)
- 27) 小林君美, 加藤康夫, 井上律子, 松本守海他: 左主気管支完全閉塞および右肺縦隔ヘルニアをきたした肺結核の1例について, 第6回中部外科学会総会(昭45.8)
- 28) 甲斐隆義, 池田貞雄, 人見滋樹, 船津武志: 巨大な胸骨腫瘍の1例—とくにその摘出後の胸壁再建術, 第23回日本胸部外科学会総会(昭45.9)
- 29) 池田貞雄, 船津武志, 甲斐隆義, 人見滋樹, 岡田慶夫: 70才以上の肺癌症例における手術成績の検討, 第23回日本胸部外科学会総会(昭45.9)
- 30) 船津武志, 池田貞雄, 人見滋樹, 甲斐隆義: 胸部疾患における縦隔鏡検査および胸腔鏡検査の応用, とくに胸腔鏡下肺生検について, 第23回日本胸部外科学会総会(昭45.9)
- 31) 池田貞雄, 岡田慶夫: 肺癌における腫瘍抗原の検索, 第29回日本癌学会総会(昭45.10)
- 32) 人見滋樹, 池田貞雄, 船津武志, 甲斐隆義: 胸腔造影の診断学的意義について, 第11回日本肺癌学会総会(昭45.10)
- 33) 船津武志, 池田貞雄, 人見滋樹, 甲斐隆義: 肺癌の手術適応, 一縦隔鏡検査と胸腔鏡検査の併用について—第11回日本肺癌学会総会(昭45.10)
- 34) 小林君美, 加藤康夫, 井上律子, 松本守海他: 高令者肺結核の外科的療法, 第25回国立病院療養所総合医学会(昭45.10)
- 35) 小林君美, 松本守海, 井上律子, 加藤康夫他: 人工弁置換術後の血栓形成について, 第25回国立病院療養所総合医学会(昭45.10)
- 36) 轟 文夫, 久野健志, 加藤幹夫: Exophytic Endobronchial Carcinoma の自験例からみた中心型早期肺癌の発育と進展, 第11回日本肺癌学会総会(昭45.10)
- 37) 池田貞雄, 甲斐隆義, 船津武志, 人見滋樹: 肺癌の晩期再発—とくに治療後5年以上を経た晩期再発例と非再発例との比較検討, 第11回日本肺癌学会総会(昭45.10)
- 38) 人見滋樹, 池田貞雄, 船津武志, 甲斐隆義: 胸腔造影法—とくに縦隔腫瘍における応用, 第6回日本胸部疾患学会近畿地方会(昭45.12)
- 39) 甲斐隆義, 人見滋樹, 船津武志, 池田貞雄: びまん性肺疾患に対する胸腔鏡下肺生検法の意義, 第6回日本胸部疾患学会近畿地方会(昭45.12)
- 40) 小林君美, 井上律子, 加藤康夫, 松本守海他: 肺外傷の1治験例, 第58回岐阜外科集談会(昭45.10)
- 41) 小林君美, 松本守海, 井上律子, 加藤康夫他: 心膜欠損症の1例について, 第58回岐阜外科集談会(昭45.10)
- 42) 池田貞雄, 岡田慶夫: 肺癌における腫瘍抗原の検索, 第29回日本癌学会総会(昭45.10)
- 43) 寺松 孝, 船津武志, 小林君美, 山本博昭, 松谷之義: 胸腺腫の免疫学的検討, 日本臨床免疫研究会第2回総会(昭45.11)

- 44) 寺松孝, 大島駿作: 興味ある肺手術例2例, 第36回日本結核病学会 第6回胸部疾患学会 合同関西地方会 (昭45.12)
- 45) 小林君美, 加藤康夫, 井上律子, 松本守海他1名: 縦隔奇形腫(皮様囊腫)の1例について, 第59回岐阜外科集談会 (昭45.12)
- 46) 船津武志, 甲斐隆義, 人見滋樹, 池田貞雄: 胸部疾患診断法としての縦隔鏡検査, 胸腔鏡検査並びに胸腔鏡下生検, 京大胸部研学術講演会 (昭46.1)
- 47) 人見滋樹: 胸腔内造影法(今日の話「肺疾患診断へのアプローチ」) 京大胸部研学術講演会 (昭46.1)

〔 著 書 〕

- 1) Nagaishi, C., Nagasawa, N., Yamashita, M., Okada, Y. and Inaba, N.: The Lung, With Special Reference to Fine Structure, Igakushoin (昭46. 近く発行予定)
- 2) 長石忠三校閲, 岡田慶夫著: 「肺癌」, 医学書院 (昭46. 近く発行予定)

〔 誌 上 発 表 〕

- 1) Kitano, M., Okada, Y. and Nagaishi, C.: Studies on Transplantation Immunity of Methylcholanthrene Induced Tumor by Use of Transplantation in Lymph Nodes and of Diffusion Chamber, *Exp. Medicine and Surgery (Brooklyn, New York)* Vol. 27, No. 4, 1969
- 2) 轟 文夫, 佐藤新太郎, 伊藤元彦, 池田貞雄, 岡田慶夫: 気管支内異物(魚骨)の刺戟により発生したと思われる肺癌の1例, *胸部外科*, 23巻, 1号 (昭45.1)
- 3) 岡田慶夫, 池田貞雄: 肺癌および肺組織に比較的特異的な2,3の抗原について, *京大胸部研紀要*, 3巻, 2号 (昭45.3)
- 4) 岡田慶夫, 池田貞雄, 伊藤元彦, 佐藤新太郎他: 小細胞型未分化癌に対する切除療法の治療成績, とくに長期生存例について, *肺癌*, 10巻, 1号 (昭45.3)
- 5) 寺松 孝, 人見 滋樹, 船津武志, 呉海竜, 井上 律子, 矢崎 次郎: 外科的難治例における2,2'-(ethylenchimine)-di-1-butal の価値, *結核*, 45巻, 3号 (昭45.3)
- 6) 加藤康夫, 清水慶彦, 井上律子, 松本守海: Disposable Vinyl Sheet Oxygenator による体外循環の経験, *医療*, 24巻 (昭45.3)
- 7) 佐川弥之助: 肺胞の構造, 呼吸と循環, 18巻, 6号 (昭45.6)
- 8) 長石忠三: 肺胞孔と肺気腫〔特集肺気腫〕呼吸と循環 (肺気腫研究会10周年記念号), 18巻, 7号 (昭45.7)
- 9) 寺松 孝: 肺結核化学療法私見, *臨床と研究*, 47巻, 7号 (昭45.7)
- 10) 寺松 孝: 難治性肺結核—外科的療法の下に限界, *胸部外科*, 23巻, 9号 (昭45.9)
- 11) T. Teramatsu: Autoimmune disease after organ transplantation, *World Wide Medical News* (昭45.9)
- 12) 長石忠三, 池田貞雄: BLM の肺癌に対する使用経験, *ブレオマイシン研究会肺癌部会誌* 2号 (昭45.10)
- 13) 人見滋樹: 交叉循環病の発来機序に関する実験的研究, *移植*, 5巻, 1号 (昭45)
- 14) 加藤幹夫, 久野健志, 大岡 剛, 佐川弥之助: 開胸術後における呼吸不全, 診断と治療, 58巻, 12号 (昭45.12)
- 15) 甲斐隆義, 大岡 剛, 佐川弥之助: 肺水腫の発来機序に関する実験的研究, *臨床生理*, 1巻, 1号 (昭46.1)
- 16) 井上律子: 全身麻酔下アナフィラキシー・ショックに関する実験的研究, *京大胸部研紀要*, 4:77, (昭45)
- 17) Nagaishi, C. and Okada, Y.: Electron Microscopy of the Alveolar Region, "La Prensa Médica Argentina", Prof. Mazzei 教授就任25周年記念号用要請論文, Argentina (昭46.3 発行予定)
- 18) 岡田慶夫, 池田貞雄: 肺結核と肺癌, *臨床と研究* (昭45)
- 19) 岡田慶夫, 池田貞雄, 泉孝英, 甲斐隆義他: 肺胞蛋白症の電子顕微鏡的観察, *臨床電顕学会誌*, 3巻, 1号 (昭46近刊号)

- 20) 岡田慶夫, 東島 功: 特発性食道破裂の1 治験例, 京大胸部研紀要 (昭46近刊号)
- 21) 岡田慶夫他: 食道・胃接合部における扁平・腺上皮移行の走査型ならびに透過型電子顕微鏡的観察, 京大胸部研紀要 (昭46近刊号)
- 22) 岡田慶夫: 組織型別にみた肺癌の悪性度, 1970年度日本合同癌会議シンポジウム記録 (昭46近刊号)
- 23) 岡田慶夫: 間質性肺炎の電顕像, とくに肺胞上皮細胞の変化について, 日本病理学会誌, 別冊, 秋期総会号, シンポジウム (昭46近刊号)
- 24) Okada, Y.: Electron Microscopy of Interstitial Pneumonia, with Special Reference to Alveolar Epithelial Cells, Acta Pathologica Jap. (昭46近刊号)
- 25) 人見滋樹, 池田貞雄, 船津武志, 甲斐隆義: 胸腔造影法の診断学的意義について, 胸部外科(昭46近刊号)
- 26) 張 炎森: 交換輸血の免疫学的意義について〔第1報〕輸血用血液中のリンパ球系細胞の生存期間, 日本輸血学会誌 (昭46近刊号)

病 理 学 部 (主任 教授 安 平 公 夫)

〔学 会 発 表〕

- 1) 安平公夫: Adjuvant の歴史と今日の話, 第43回日本細菌学会総会シンポジウム“adjuvant 活性”(1970.4.3), 日本細菌学雑誌 25: 423-4 (1970)
- 2) 安平公夫: methycolanthrene-adjuvant 肺注入による形質的細胞の増殖, 第43回日本細菌学会総会シンポジウム“adjuvant 活性”付議 (1970.4.3)
- 3) 安平公夫: 結核菌蠟D subfraction の生物活性について, 第59回日本病理学会総会 (1970.4.9), 日本病理学会誌 59: 80 (1970)
- 4) 安平公夫: Freund Adjuvant のによる形質細胞の増殖, 第45回日本結核病学会, 誌上発表(1970.7.11)
- 5) 安平公夫, 竹田俊男, 木村邦子: 類上皮細胞形成能に及ぼす免疫抑制剤, 抗リンパ血清の効果, 第23回実験結核研究会 (1970.7.10) (缺演紙上参加). 結核 45: 31 及 45: 407 (1970)
- 6) 安平公夫, 浜本康平: AD-subfraction の生物活性(2) 類上皮細胞形成能, 第23回 実験結核研究会, 誌上発表 (1970.7.10)
- 7) 安平公夫: サルコイド病変の実験発生(1) 結核菌体リピッド及びその作用条件, 第10回日本胸部疾患学会, (1970.7.13) (缺演, 誌上発表), 第10回日本胸部疾患学会講演抄録 41頁 (1970)
- 8) 安平公夫: 感染アレルギーの組織表現“肉芽形成を中心に”, 第20回日本アレルギー学会ラウンドテーブル“感染アレルギー”(1970.11.5), アレルギー19 (増) 126 (1970)
- 9) 安平公夫, 浜本康平: 結核と免疫耐性(2) 兎での実験, 第25回実験結核研究会総会 (1970.11.27)
- 10) 安平公夫: サルコイドの実験発生, その発生条件について, 基礎研究の立場から, 第36回日本結核病学会, 第6回日本胸部疾患学会合同近畿地方会シンポジウム“サルコイドーシスの病因をめぐって”(1970.12.5)
- 11) 森川 茂: 初期1次反応および2次反応における赤脾髄および白脾髄の抗体産生細胞の動態, 第20回日本アレルギー学会総会 (1970.11)
- 12) 原田孝之, 森川茂: γ -グロブリン分画にみられる膝ランゲルハンス氏島 α 細胞胞体との特異的な親和性について, 第11回日本組織細胞化学会 (1970.11)
- 13) 森川 茂: 抗リンパ球抗体の特異性とリンパ球の抗原性について, 京大胸部研講演会 (1971.1.30)
- 14) 高橋権也, 安平公夫: マウスに静脈注射された methylcholanthrene の臓器内分布及び排泄(3) 胆汁及び糞便中に現われる 3-MC 代謝物質, 第29回日本癌学会総会 (1970.10)
- 15) 竹田俊男, 鈴木康弘: 顎下腺剥出マウスにおける二, 三の知見について, 第15回日本唾液腺シンポジウム (1970.12)
- 16) 竹田俊男: マウス顎下腺に含まれる胸腺・リンパ組織抑圧因子に関する実験的研究, 京大胸部研講演会 (1970.1.24)

〔誌 上 発 表〕

- 1) 安平公夫：Nocardia の病原性 (1), 真菌誌, 10 (4) : 3-9 (1969)
- 2) 安平公夫：結核菌体成分による組織反応, 長石忠三 他編 図説胸部疾患診療, 研究最近の動向, 74-77, アカデミーサービス社 (1970.6.30)
- 3) 安平公夫, 小原幸信：肺の扁平上皮癌の実験的発生, 同上 148-151 (1970.6.30)
- 4) 小林 博：マウスの Cryptococcus neoformans 感染に及ぼす大腸菌またはその内毒素の影響 1. Cryptococcus neoformans 単独接種マウスの感染経過, 真菌と真菌症, 10:298-304, 1969
- 5) 小林博：同上(2) Cryptococcus neoformans 大量静脈内感染の際の大腸菌またはその内毒素の影響, 真菌と真菌症 11 : 151-158 (1970)
- 6) Kobayashi, H : Effect of *Escherichia coli* and its endotoxin on the intravenous infection of mice with *Nocardia asteroides*, Jap. J. Microbiol., 14 : 479-486 (1970)
- 7) Modabber, F., Morikawa, S. and Coons, A. H. : Detection of antigen binding cells in the thymus of normal mice, Science, 170:1102-1104 (1970)
- 8) Takeda, T. and Grollman, A.: Spontaneously occurring renal disease in the guinea pig, Am. J. Path., 60(1) : 103-117 (1970)

細胞化学部 (主任 教授 高松 英雄)

〔学 会 発 表〕

- 1) 平井圭一：アミノピフェニル類のミトコンドリアによる酸化及び細胞内成分との相互作用, 第29回日本癌学会総会 (大阪) 昭和45年10月
- 2) 金村泰輔：肝 glucose-6-phosphatase 活性に対する formaldehyde 及び glutaraldehyde 固定の影響, 第11回日本組織細胞化学会総会昭和45年11月 (東京)
- 3) 金村泰輔：肝クリオスタット切片の短時間 glutaraldehyde 固定による glucose-6-phosphatase の電子顕微鏡的検出, 第11回日本組織細胞化学会総会昭和45年11月 (東京)
- 4) 金村泰輔：Aldehyde sensitive enzymes の電顕的組織化学, 昭和45年度胸部研学術講演会 (昭和46年1月30日)
- 5) 大川欣一：分離肝細胞膜の組織化学的研究第2報, ATPase 並びに AMPase 活性に対するアセトンの影響について, 第11回日本組織細胞化学会総会昭和45年11月 (東京)

〔誌 上 発 表〕

- 1) Shinsuke, Kanamura : Difference in resistance to glutaraldehyde or formaldehyde fixation between mouse and rat hepatic glucose-6-phosphatase, Acta Histochem. Cytochem. 3 : 160 (1970)
- 2) Kei-ichi Hirai : Visualization of heme enzymes by the interaction with photooxidized 3,3'-diaminobenzidine, J. Histochem. Cytochem. Vol. 19 (in press)
- 3) 高松英雄, 鈴木 裕 : 組織化学への理解, 臨床検査14 : 974 (1970)

細菌血清学部 (主任 教授 上坂 一郎)

〔学 会 報 告〕

- 1) 桂 義元, 上坂一郎：血清抗体による内臓 Candida 症診断の一方法について, 日本細菌学会第43回総会 (昭和45年4月3日) 於京都

- 2) 桂 義元, 上坂一郎: マウス実験 *Candida* 症における血清の Germ tube clumping inhibition (C. I.) について, 第14回日本医真菌学会総会 (昭和45年10月7日) 於 大阪
- 3) 大岩弘治: 無細胞培養液による鼠ライ菌の培養: 菌数増加の定量的解析並びに動物還元接種について, 第18回日本癩学会西部地方会 (昭和45年10月21日) 於 岡山
- 4) K. OIWA: Cultivation of *M. leprae murium* in a metabolically active cell-free medium. Quantitative analysis of the growth of the organism and its re-inoculation into mice. U. S.-Japan Leprosy Panel Conference. Nov. 10-12. 1970. Tokyo.
- 5) 竹尾漢治 *Cryptococcus neoformans* の新しい同定法について, 昭和45年度胸部研学会講演会 (昭和46年1月30日)
- 6) 尾里啓子: 培養マクロファージの鼠癩菌感染による H^3 -uridine の取込み阻害について, 昭和45年度胸部研学会講演会 (昭和46年1月30日)
- 7) 桂 義元: *Candida* 症の診断, 昭和45年度胸部研学会講演会, 今日の話「肺疾患診断へのアプローチ」 (昭和46年1月30日)
- 8) 上坂一郎: サルコイドーシスの病因をめぐって, 2. 基礎研究の立場から, 第36回日本結核病学会, 第6回日本胸部疾患学会近畿地方会, シンポジウム, 1. 於 京都 (昭和45年12月5日)

〔誌 上 発 表〕

- 1) 上坂一郎: *Nocardia* の病原性 (2), 真菌と真菌症 10巻4号 254頁 (昭和44年12月)
- 2) 小林 博: マウスの *Cryptococcus neoformans* 感染に及ぼす大腸菌またはその内毒素の影響, (1) *Cryptococcus neoformans* 単独接種マウスの感染経過, 真菌と真菌症 10巻4号 298頁 (昭和44年12月)
- 3) 小林 博: 同上, (2) *Cryptococcus neoformans* 大量静脈内感染の際の大腸菌またはその内毒素の影響, 真菌と真菌症 11巻3号 151-158頁 (昭和45年9月)
- 4) Kobayashi, H.: Effect of *Escherichia coli* and its endotoxin on the intravenous infection of mice with *Nocardia asteroides*, *Japan. J. Microbiol.*, 14(6): 479-486, (1970)
- 5) 上坂一郎: *Nocardia* の形態, 図説胸部疾患診療・研究, 最近の動向 (長石忠三他編集) アカデミーサービス (昭和45年6月)

特 別 ゼ ミ ナ ー ル

第5回「In vitro の発癌: 化学発癌剤を中心として」

講師 大阪大学微生物病研究所 角永 武夫 昭和45年4月25日

第6回「酵素抗体法による細胞内抗原の電顕的検索」

講師 愛知ガンセンター研究所 星野 宗光 昭和45年5月16日

第7回「異常細胞の増殖」

講師 京都府立医科大学教授 藤田 哲也 昭和45年6月27日

第8回「細胞分裂とゴルジ装置」

講師 関西医科大学助教授 齊藤多久馬 昭和45年7月25日

第9回「胸腺と生殖機能: 特に胸腺剔出後の卵巣発育障害について」

講師 愛知ガンセンター研究所部長 西塚 泰章 昭和43年9月19日

第10回「複合脂質の微量定量法とその臨床的応用」

講師 大阪大学医学部 山本 章 昭和45年10月24日

第11回「動物細胞リボゾームの構造」

講師 関西医科大学教授 田代 裕 昭和45年12月12日

第12回「膜の興奮現象」

講師 大阪大学基礎工学部助教授 葛西 道生 昭和46年2月6日

第13回「尿路系腫瘍の実験的研究」

講師 奈良医科大学助教授 伊東 信行 昭和46年3月27日

Bull. Chest Dis. Inst., Kyoto Univ. の投稿規定

- 1) 原稿は概ね投稿順に掲載する。
- 2) 原稿は本文, 写真, 図, 表を含めて刷上り英文の場合は12頁以内, 和文の場合は8頁以内とする。同一主題の論文の同時掲載は3篇を限度とする。以上を超過した場合は編集委員会において協議の上決定する。但し, この場合は超過料を徴収する。
参考: 英文の場合 A 4 版ダブルスペース, タイプ印刷 3 枚で刷上り約 2 頁, 和文の場合は1,600字で刷上り約 1 頁
- 3) 英文は, ダブルスペース, タイプ印刷, 和文はひらがな交り, 横書きとし, 字画及び句読点を明瞭に記すこと。
- 4) 外国人名は外国綴のままとし, 頭文字は大文字で, その他は小文字でタイプ又は印刷体で書くこと。
- 5) 度量衡の書き方は, m, cm, l, ml, g, mg 等の記号を用い, 記号の後に省略符号・を附さないこと。
- 6) 本文原稿に写真, 図, 表等の挿入場所を明示のこと。
- 7) 綜説及び原著に引用された文献は, 引用された順番に番号を附して末尾に一括して記載すること。尚, 雑誌の場合は著者名, 標題, 誌名 (一般に通用する略名でよい), 巻, 頁, 年 (西暦) の順に, 著書の場合は著者名, 書名, 発行所, 発行年 (西暦) 頁の順に記載のこと。

参考例:

- 1) Root, R.K. and Wolff, S. M., Pathogenic

mechanism in experimental immune fever, J. Exp. Med., 128 : 309~323, 1968.

- 2) 渡辺喜久雄: クリオグロブリンの免疫学的研究, アレルギー, 11: 18~40, 1962.
- 3) Schwartz, R. S.: Immunosuppressive therapy. In Immunopathology, Ed. by Miescher, P. A. and Grabar, P., Schwabe and Co., Basel, 1967, pp. 360.
- 4) 佐竹一夫: クロマトグラフィ, 赤堀四郎 篇酵素研究法 1, 朝倉書店, 東京, 1957 pp. 365.

尚連名の場合は2名迄は参考例1)に従うが, 3名以上の場合は最初の著者名のみを記し, その他は英文の場合は“et al”(イタリック), 和文の場合は“他”を用いること。

- 8) 写真, 図, 表は英文の場合は, 写真及び図は凡て Figure を用い, 表は Table を用いる。和文の場合は, 写真(又は図), 図, 表とする。

参考例: Figure 3 or Fig. 3

写真 3 (又は図 3), 表 5

- 9) 和文原稿の場合は英文抄録 (A 4 版ダブルスペース, タイプ印刷 1 頁程度) を添付のこと。
- 10) ランニングヘッド (英文の場合50レタース以内, 和文の場合30字以内) を附すること。
- 11) 別刷に要する費用は凡て個人負担とする。